

ゼリットを服用してはならない場合とは？

ゼリットの有効成分であるスタブジンや不活性成分など、ゼリットに含まれる成分に対してアレルギーがある場合には服用しないでください（パンフレットの最後にある「不活性成分」の項をご覧ください）。これらの成分のいずれかに対して、これまでにアレルギー反応を起こしたことがあると思われる場合には、医師にそのことをお伝えください。

ゼリットの服用のしかたは？

保管のしかたは？

服用量（1 カプセルまたは1 さじ中の含有量）については、あなたの体重、腎臓および肝臓の機能、他の薬剤による過去の副作用に基づいて、医師が判断します。服用に際しては、医師の指示を正しく守ってください。飲み忘れに注意し、飲むのを忘れてしまった場合には、思い出したときにすぐ服用してください。すぐに次の服用時間がくる場合には、飲み忘れた分を1回とばして、あとは通常通りのスケジュールに従って服用を続けてください。ゼリットは、食べ物と一緒にでも、空腹時でも服用可能です。

- **カプセル**：ゼリットカプセルは通常、1日2回、12時間おきに服用します。密封容器に入れ、高温を避け、お子さんやペットが触れないような場所に室温で保管してください。洗面所の薬棚や台所の流しの下など、湿気の多い場所には保管しないでください。
- **内服液（小児用）**：ゼリット内服液は、1日2回、12時間おきに服用します。お子さんがゼリットを服用される場合には、医師から用法についての指示書を頂いてください。服用時には、その都度容器をよくふってから用量をはかってください。密封容器に入れ、冷蔵庫で保管してください。30日を経過した残余薬剤は処分してください。

腎臓に問題がある場合：腎臓の機能に問題がある場合には、ゼリットを服用している間、医師が腎機能を観察することがあります。また、ゼリットの用量を調節する場合があります。

誰かがゼリットを多く飲みすぎてしまったら？

ゼリットを多く飲みすぎてしまったと思われる人がいたら、直ちに医学的な処置を受けさせるようにしてください。担当の医師または中毒事故管理センターに連絡してください。

ゼリットを服用中、避けなければならないことは？

他の薬剤。処方箋なしに購入できる薬剤も含めて、他の薬剤を服用するとゼリットの効果が阻害される場合があります。ゼリットとジドブジン（AZT）との併用は避けてください。医師に相談することなく、薬剤、ビタミン剤やサプリメント、その他の健康製剤を服用するのは避けてください（同じく末梢神経障害を引き起こす恐れのある薬剤と併用した場合、この重篤な副作用の生じる危険性が增大することがあります）。

妊娠。ゼリットがヒトの胎児に有害な影響を及ぼす可能性があるかどうかは不明です。ただし、ゼリットをジダノシンや他の HIV 治療薬と併用した妊婦に重篤な副作用が観察されています。妊娠中にゼリットを使用する場合には、まず医師に相談してください。ゼリットを服用中に妊娠した場合やこれから妊娠を考えている場合には、医師に報告してください。

授乳。動物にゼリットを投与すると、母乳中にゼリットが移行することが複数の研究で明らかになって

いることから、ヒトの母乳でも同様のことが考えられます。米疾病管理センター（CDC）は、赤ちゃんが HIV に感染する危険を減少させ、授乳児に重篤な副作用が生じる可能性を減らすために、HIV に感染した母親は母乳による育児を避けるよう勧告しています。したがって、ゼリット服用中は、赤ちゃんの授乳は避けてください。

ゼリットによる副作用として考えられるものは？

ゼリットの重篤な副作用としては、以下のものがあります。

- 血中乳酸が著しく増加する乳酸アシドーシス、肝臓の炎症（痛みと腫脹）を伴う重篤な肝腫大、死に至る可能性のある肝不全。
- 手足の神経障害である末梢神経障害。

ゼリットを同じような副作用をもつ他の薬剤と併用した場合、ゼリットを単独で服用した場合よりも副作用の生じる可能性が高くなることがあります。例えば、肝腫大、末梢神経障害、または膵炎を生じる可能性のある他の薬剤（ヒドロキシ尿素併用または非併用のジダノシンなど）とゼリットを併用すると、これらの副作用が生じる可能性が高くなることが考えられます。小児の場合も、成人と同様の副作用が生じます。

乳酸アシドーシスおよび重篤な肝腫大。ゼリットを服用した患者さん（妊婦を含む）において、乳酸アシドーシスおよび重篤な肝腫大が生じており、死亡も報告されています。乳酸アシドーシスの症状としては、以下のものが挙げられます。

- 悪心や嘔吐、通常とは異なる、あるいは予期せぬ胃部不快感
- 脱力感と疲労感
- 息切れ
- 腕や脚の脱力感

上記のいずれかの症状に気づいたり、身体の状態が急変したりした場合には、ゼリットの服用を中止し、直ちに医師に連絡してください。乳酸アシドーシスは医学的な緊急事態であり、入院加療を必要とします。女性や過体重の患者さん、ヌクレオシド系薬剤を長期間使用している患者さんは、乳酸アシドーシスを生じる可能性が高くなります。ゼリットを服用中は、肝機能をチェックするために、定期的に医師の診察を受ける必要があります。特に、大酒歴がある場合や肝臓に問題がある場合には注意が必要です。ゼリット、ジダノシン、およびヒドロキシ尿素を併用すると、肝障害の危険性が増大し、致命的となる場合があります。これらの薬剤を併用している場合には、医師による厳重な肝機能の観察が必要となります。

末梢神経障害。この神経障害は、稀ではありますが、重篤な場合があります。ゼリットを服用中の方、あるいはお子さんで、手や足のしびれ、ぴりぴりする感じ、焼灼感、または痛みが続く場合には、直ちに医師に相談してください。お子さんの場合、こうした症状が現れても認識できなかったり、手や足にしびれ、焼灼感、ぴりぴりした感覚、痛みがあるなどと説明できなかったりすることがあります。お子さんに末梢神経障害が生じた場合にどのようにしたら発見できるか、お子さんの主治医に相談してください。

末梢神経障害は、既往歴のある人の方が発症しやすいので、ゼリットを服用される方、あるいはお子さ

んで、過去にこの疾患を経験したことがある場合には、医師にその旨を教えてください。末梢神経障害はまた、神経に作用する薬を投与されている患者さんや進行期の HIV 疾患を有する患者さんにおいても発現しやすくなりますが、疾患のどの段階でも発症の可能性はあります。末梢神経障害を生じた場合、ゼリットの服用の中止を医師から指示されることがあります。一時的に症状が悪化する場合がありますが、後に改善します。末梢神経障害の症状が完全に消失したら、ゼリットの服用を少量から再開することができます。

膵炎。膵炎は膵臓の危険な炎症であり、死に至る恐れもあります。**胃痛や悪心、嘔吐が生じた場合には、直ちに医師に相談してください。**これらは膵炎の徴候である可能性があります。過去に膵炎の経験がある方、アルコール飲料を定期的に摂取している方、あるいは胆石のある方は、その旨を医師に教えてください。こうした患者さんは、膵炎を生じる可能性が高くなります。進行期の HIV 疾患を有する患者さんも発症しやすくなりますが、疾患のどの段階でも発症の可能性はあります。ヒドロキシ尿素の併用の有無に関わらず、ゼリットとジダノシンを併用した場合、膵炎を生じる危険性は高くなります。

その他の副作用：末梢神経障害のほか、成人を対象とした試験でゼリットの推奨用量を投与した際に最も多くみられた副作用は、頭痛、下痢、発疹、悪心および嘔吐でした。その他の副作用としては、腹痛、筋肉痛、不眠、食欲不振、悪寒または発熱、アレルギー反応、および血液障害が生じることがあります。

抗レトロウイルス薬を投与されている一部の患者さんでは、体脂肪の変化が観察されています。こうした変化として、上背部や頸部（「野牛肩」）、胸部、胴回りの脂肪の増加が挙げられます。また、脚や腕、顔の脂肪が落ちてしまうこともあります。こうした体脂肪変化の原因や長期的な健康への影響は、今のところ不明です。

ゼリットについて、他に知っておくべきことは？

糖尿病がある場合：ゼリット内服液には、1 ml あたり 50 mg のショ糖（砂糖）が含まれています。

不活性成分：

ゼリットカプセル：結晶セルロース、ナトリウムスターチグリコール酸塩、ラクトース（乳糖）、ステアリン酸マグネシウム。ハードゼラチンカプセル使用。

ゼリット内服液：メチルパラベン、プロピルパラベン、カルボキシメチルセルロースナトリウム、ショ糖（砂糖）、および着香料。

このお薬は、あなたの病状に合わせて処方したものです。ゼリットを他の病状に対して用いたり、他の人にあげたりしないでください。ゼリットも含め、薬剤はすべて子供の手の届かないところに保管してください。期限切れや不要になったゼリットは、トイレに流すか、流しの水で洗い流して処分してください。

このパンフレットにまとめた内容には、ゼリットについて知っておくべき事柄がすべて含まれているわけではありません。薬は、患者さん向け情報に記載された以外の目的で処方されることもあります。疑問に思うことや気になることがある場合、ゼリットについてもっと詳しく知りたい場合は、このパンフレットのもととなった、処方に関する詳しい資料が医師や薬剤師の手元にあります。資料を読んで、医師やその他の医療専門家と相談したいと思う場合もあるかもしれません。文章にまとめたものを読んだからといって、医師との綿密な話し合いが必要なくなるというわけではありません。

Bristol-Myers Squibb Virology
Bristol-Myers Squibb Company
Princeton, NJ 08543 USA

この患者さん向け情報は、米国食品医薬品局による承認済みです。

2002年1月改訂

1099813A5 (4/02) に基づき作成。

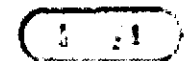
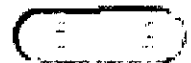
患者さん向け情報

要指示医薬品

ヴァイデックス® EC

(一般名=ジダノシンまたは ddI)

ヴァイデックス® EC (ジダノシン) 徐放性カプセル
腸溶性顆粒剤



ヴァイデックス EC はどのような薬?

ヴァイデックス EC (バイデックス・イー・シーと読みます) は、成人の HIV (ヒト免疫不全ウイルス、AIDS の原因となるウイルスのこと) 感染者の治療に、他の薬剤とともに使用する処方箋薬です。ヴァイデックス EC は、「ヌクレオシド類似化合物」と呼ばれる薬剤の一種です。HIV の増殖を抑えることで、体内における CD4 細胞 (HIV、その他の感染症と戦うのに重要な働きをする細胞) の供給を維持する働きをします。

ヴァイデックス EC を服用しても、HIV 感染が治癒するわけではありません。現時点では、HIV 感染を治癒する治療法はありません。ヴァイデックス EC を服用していても、他の病原菌による感染症など、HIV に関係した病気が持続する場合があります。定期的に医師の診察を受け、少しでも医学的な問題が生じたときには報告するようにしてください。

ヴァイデックス EC は HIV に感染した患者さんのウイルスが他の人にうつるのを防ぐ薬ではありません。他の人々への感染を防ぐためには、常に安全な性行為をこころがけ、他の人々があなたの血液や体液に触れないように注意する必要があります。

ヴァイデックス EC を長期間にわたって用いた場合、ウイルスに対してどのくらい効果があるのかについては、まだ詳しいことはわかっていません。

ヴァイデックス EC には、胃酸によって薬が分解されるのを防ぐために、腸溶コーティングが施されています。薬が小腸にたどりつくと、コーティングが溶けるようになっています。

ヴァイデックス EC を服用してはならない場合とは?

ヴァイデックス EC の有効成分であるジダノシンや不活性成分など、ヴァイデックス EC に含まれる

成分に対してアレルギーがある場合には服用しないでください（パンフレットの最後にある「不活性成分」の項をご覧ください）。これらの成分のいずれかに対して、これまでにアレルギー反応を起こしたことがあると思われる場合には、医師にそのことをお伝えください。

ヴァイデックス EC については成人を対象とした研究しか行われていませんので、小児への使用は勧められません。

ヴァイデックス EC の服用のしかたは？

保管のしかたは？

ヴァイデックス EC は 1 日に 1 回だけ服用してください。服用量については、あなたの体重、腎臓および肝臓の機能、他に服用している薬、ヴァイデックスその他の薬剤による過去の副作用に基づいて、医師が判断します。ヴァイデックス EC は空腹時に服用してください。食べ物と一緒に服用しないでください。カプセルは開けずに、そのまま飲み込むようにします。また飲み忘れに注意してください。もし飲むのを忘れてしまったら、思い出したときにすぐ服用してください。すぐに次の服用時間がくる場合には、飲み忘れた分を 1 回とばして、あとは通常通りのスケジュールに従って服用を続けてください。

カプセルは密閉容器に入れ、室温で保管してください。高温になる場所は避け、子供やペットが触れないような場所に保管してください。

腎臓の病気がある場合：腎臓の機能に問題がある場合には、ヴァイデックス EC を服用している間、医師による定期的な検査を受け、腎臓の働きをチェックする必要があります。ヴァイデックス EC の用量を少なくする場合があります。

誰かがヴァイデックス EC を多く飲みすぎてしまったら？

ヴァイデックス EC を多く飲みすぎてしまった人がいたら直ちに医学的な処置を受けさせてください。担当の医師または中毒事故管理センターに連絡してください。

ヴァイデックス EC を服用中、避けなければならないことは？

飲酒。ヴァイデックス EC 服用中の飲酒は避けてください。膵炎（膵臓の痛みや炎症）や肝臓の障害を生じる危険性が高くなる可能性があります。

他の薬剤。処方箋なしに購入できる薬剤も含めて、他の薬剤を服用するとヴァイデックス EC の効果が阻害されたり、副作用が大きくなる可能性があります。医師に相談することなく、薬剤やビタミン剤、その他の健康製剤を服用するのは避けてください。

妊娠。ヴァイデックス EC がヒトの胎児に有害な影響を及ぼす可能性があるかどうかは不明です。ただし、ZERIT（スタブジン、d4T とも言う）などの HIV 治療薬とジダノシン（ヴァイデックス EC の有効成分）を併用した妊婦に重大な副作用が観察されています。妊娠中にヴァイデックス EC を使用する場合には、まず医師に相談してください。ヴァイデックス EC を服用中に妊娠した場合やこれから妊娠を考えている場合には、医師に報告してください。

授乳。動物にジダノシン（ヴァイデックス EC の有効成分）を投与すると、母乳中にジダノシンが分泌されることが複数の研究で明らかになっています。ヒトの母乳でも同様のことが考えられます。米疾

病管理センター（CDC）は、母親が HIV に感染している場合、母乳による育児は避けるようにと勧告しています。そうすれば、赤ちゃんが HIV に感染する危険性が少なくなり、授乳の際に重大な副作用が生じる可能性も低くなるからです。したがって、ヴァイデックス EC 服用中は、赤ちゃんへの授乳は避けてください。

ヴァイデックス EC による副作用として考えられるものは？

膵炎。膵炎は、死に至るおそれのある危険な膵臓の炎症です。胃痛や悪心、嘔吐が生じた場合には、直ちに医師に相談してください。これらは膵炎の徴候の可能性がります。過去に膵炎の経験がある場合には、ヴァイデックス EC による治療を始める前に、医師にそのことを話してください。既往歴のある人はそうでない人に比べて、膵炎を生じる可能性が高くなります。また、進行期の HIV 疾患の患者さんも膵炎を生じる可能性が高くなります。ただし、膵炎は HIV 疾患のどの段階でも生じる可能性があります。腎臓に問題がある患者さん、飲酒の習慣がある患者さん、スタブジンまたはヒドロキシ尿素を併用している患者さんでは、発現頻度が高くなると考えられます。膵炎を生じた場合、ヴァイデックス EC の服用は中止することになります。

乳酸アシドーシス、重篤な肝腫大、肝機能不全（死亡を含む）が報告されています（妊婦を含む）。肝臓に問題があることを示す症状としては、以下のようなものが挙げられます。

- 著明な脱力、疲労、または苦痛
- 通常とは異なる、あるいは予期せぬ胃部不快感
- 寒け
- めまい、または頭がくらくらする感じ
- 不意に心拍がゆっくりになったり不規則になったりすること

乳酸アシドーシスは、入院加療を要する医学的な緊急事態です。

上記のいずれかの症状に気づいたり、身体の状態に変化が生じたりしたら、ヴァイデックス EC の服用を中止し、直ちに医師に連絡してください。女性や太りすぎの患者さん、他の HIV 感染症治療薬を長期間使用している患者さんは、乳酸アシドーシスを生じる可能性が高くなります。ヴァイデックス EC を服用中は、肝機能をチェックするために、定期的に医師の診察を受ける必要があります。特に、大酒歴がある場合や肝臓に問題がある場合には注意が必要です。

視界の変化。ヴァイデックス EC は、眼の神経に影響を及ぼす可能性があるため、定期的に眼の検査を受ける必要があります。物の見えかたに何らかの変化が生じた場合（色覚に異常が生じたり、視界がかすんだりするような場合）には、直ちに医師に報告してください。

末梢神経障害。末梢神経障害とは、手足の神経に生じる問題です。深刻な障害が生じることもあります。手や脚のしびれ、ぴりぴりする感じ、痛みが続く場合には、直ちに医師に相談してください。

過去に末梢神経障害を経験したことがある場合には、ヴァイデックス EC による治療を始める前に医師にその旨を告げてください。既往歴のある人はそうでない人に比べて、末梢神経障害を生じる可能性が高くなります。また、神経に作用する薬剤の投与を受けている患者さんや、進行期の HIV 疾患の患者さんの場合も、発現の可能性が高くなります。しかし、末梢神経障害は HIV 疾患のどの段階でも生じる可能性があります。末梢神経障害を生じた場合、ヴァイデックス EC の服用は中止することになります。服用を中止してからしばらくは症状が悪化することもあります。その後改善します。症状が完全になくなった段階で、ヴァイデックス EC を再開するのが適切かどうかを医師とともに判断すること

になります。再開する場合には、低用量から始めることもできます。

他の薬剤に関して特に注意すべき点。ヴァイデックス EC と同じような副作用をもつ他の薬剤とヴァイデックス EC を併用すると、副作用の生じる可能性が高くなることがあります。例えば、腓炎や末梢神経障害、肝臓の障害を生じる可能性のある他の薬剤（スタブジンやヒドロキシ尿素など）とヴァイデックス EC を併用すると、これらの副作用が生じる可能性が高くなることが考えられます。

その他の副作用：他の HIV 治療薬とヴァイデックス EC を併用する成人に最も多い副作用は、下痢、悪心、頭痛、嘔吐、発疹です。

抗レトロウイルス薬を投与されている一部の患者さんでは、体脂肪の変化が報告されています。こうした変化として、上背部や頸部（「野牛肩」）、胸部、胴回りの脂肪の増加が挙げられます。また、脚や腕、顔の脂肪が落ちてしまうこともあります。こうした体脂肪変化の原因や長期的な健康への影響は、今のところ不明です。

不活性成分：

カルボキシメチルセルロース・ナトリウム 12、フタル酸ジエチル、メタクリル酸コポリマー、水酸化ナトリウム、デンプングリコール酸ナトリウム、タルク、コロイド状二酸化ケイ素、ゼラチン、ラウリル硫酸ナトリウム、二酸化チタン。

このお薬は、あなたの病状に合わせて処方したものです。ヴァイデックス EC を他の病状に対して用いたり、他の人にあげたりしないでください。ヴァイデックス EC も含め、薬剤はすべて子供の手の届かないところに保管してください。期限切れや不要になったヴァイデックス EC は、トイレに流すか、流しの水で洗い流して処分してください。

このパンフレットにまとめた内容には、ヴァイデックス EC について知っておくべき事柄がすべて含まれているわけではありません。薬は、患者さん向け情報に記載された以外の目的で処方されることもあります。疑問に思うことや気になることがある場合、ヴァイデックス EC についてもっと詳しく知りたい場合は、このパンフレットのもとになった、処方に関する詳しい資料が医師や薬剤師の手元にあります。資料を読んで、医師やその他の医療専門家と相談したいと思う場合もあるかもしれません。文章にまとめたものを読んだからといって、医師との綿密な話し合いが必要なくなるというわけではありません。

Bristol-Myers Squibb Virology
Bristol-Myers Squibb Company
Princeton, NJ 08543 USA

この患者さん向け情報は、米国食品医薬品局による承認済みです。

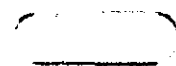
N3522-09 1116303A9 2004 年 1 月改訂

2004 年 1 月付の添付文書に基づき作成。

患者さん向け情報

要指示医薬品

サスティバ（国内の販売名はストックリンです。以下ストックリン）
カプセルおよび錠剤



警告：ストックリンと併用してはならない薬剤にはどのようなものがあるか、知っておくこと。
「ストックリンと併用してはならない薬剤」の項もご覧ください。

ストックリンの服用を始める前に、このパンフレットをお読みください。また、新しい情報が追加されている場合もありますので、処方を受ける度に、読み直してください。このパンフレットは、ストックリンに関する情報を短くまとめたものであり、ストックリンについて知っておかなくてはならない事柄がすべて記載されているわけではありません。また、このパンフレットを読んだからといって、医師と相談する必要がなくなるというものでもありません。

ストックリンはどのような薬？

ストックリンは、後天性免疫不全症候群（AIDS）の原因となるヒト免疫不全ウイルス（HIV）感染症の治療のために、他の薬剤と一緒に使用されるお薬です。ストックリンは、「非ヌクレオシド系逆転写酵素阻害薬」（NNRTI）と呼ばれる HIV 治療薬の一種です。

この薬は、血液中の HIV の量（「ウイルス負荷量」と言います）を減らすことで効果を発揮します。ストックリンは他の HIV 治療薬と一緒に使用する必要があります。他の HIV 治療薬と併用すると、ウイルス負荷を減らし、CD4 細胞（血液中に存在する免疫細胞の一種）の数を増やすことが研究で明らかになっています。ただし、すべての患者さんにこうした効果があるわけではありません。

ストックリンの服用によって HIV 感染や AIDS が治癒するわけではありません。ストックリンを服用していても他の感染症や合併症が起こる場合があるため、定期的に医師の診察を受けることがとても大切です。

ストックリンを服用することによって他の人に HIV が感染する危険性が少なくなるというわけではありません。このことは研究で示されています。ですから、常に安全な性行為をこころがけ、不潔な注射針を使用したり共用したりすることは避けてください。

ストックリンによる副作用として考えられるものは？

重大な精神障害。ストックリンを服用していると、ごく一部の患者さんに重うつ病や奇妙な考え、怒りによる行動が生じることがあります。自殺願望が生じる患者さんもあり、実際に自殺した例もあります。こうした問題は、精神疾患の既往歴をもつ患者さんに起こりやすい傾向があります。上記のような精神症状が現れたときには、直ちに医師に相談してください。そうすれば、ストックリンの服用を続けるべきかどうか、医師が判断してくれます。

よく見られる副作用。ストックリンによる治療中の副作用として多いのは、めまい、睡眠障害、眠気、集中力の欠如、変わった夢を見ることです。就寝前に胃が空っぽの状態ですとストックリンを服用すると、これらの副作用が抑えられることがあります。また、多くの場合、数週間服用を続けると副作用はなく

なります。こうしためまいなどの一般的な副作用が生じたからといって、重いうつ病や奇妙な考え、怒りによる行動などの重大な精神障害が生じるわけではありません。上記のような副作用がひとつでも続くようであれば、あるいはそれに悩まされるようであれば、直ちに医師に相談してください。ストックリン服用中にお酒を飲んだり、気分転換薬（非合法ドラッグ）を使用したりすると、これらの症状がひどくなることもあります。

めまいがする、ものごとに集中できない、あるいは眠気がするなどの場合には、車の運転や機械類の操作などの危険な作業は避けてください。

発疹はよく見られますが、通常は治療を変更しなくても消失します。少数の患者さんには、重症の発疹が生じることがあります。発疹が現れたら、直ちに医師に相談してください。一部の小児では、発疹が重大な問題になることがあります。ストックリンを服用中のお子さんに発疹やその他の副作用が現れた場合には、お子さんの担当医師に直ちに相談してください。

その他、よく見られる副作用としては疲労、胃の不調、嘔吐、下痢などがあります。

体脂肪の変化。HIV 治療薬を服用している患者さんの中には、体脂肪に変化が生じる人がいます。こうした変化として、上背部や頸部（「野牛肩」）、胸部、胴回りの脂肪の増加が挙げられます。また、脚や腕、顔の脂肪が落ちてしまうこともあります。こうした体脂肪変化の原因や長期的な健康への影響は不明です。

ストックリンを服用中に何らかの副作用に気づいたら、医師、医療従事者に相談してください。

副作用や他の理由でストックリンの服用をやめようと思ったときは、まず医師に相談してください。

ストックリンによって生じる可能性のある副作用は上述のものだけではありません。ストックリンも含め、今後あなたが使用するすべての薬剤について、副作用に関する詳しい情報が知りたいときには、医師または薬剤師にお尋ねください。

ストックリンの服用のしかたは？

一般的な事柄

- ストックリンは空腹時（できれば就寝前）に服用してください。
- 水と一緒に嚙まずに飲み込んでください。
- 食べ物と一緒に服用すると、体内に吸収される薬の量が増え、副作用が起こりやすくなる場合があります。
- 就寝時に服用すると、一部の副作用が軽くなる場合があります。
- ストックリンは、他の HIV 治療薬と一緒に用いることが必要です。ストックリンだけを服用すると、効果が出ないことがあります。
- 飲み忘れに注意してください。飲むのを忘れてしまったのに気づいたときは、もうすぐ次の服用時間がくるのでなければ、すぐ服用してください。次の服用時間に 2 回分服用することは避け、通常通りのスケジュールに従って服用を続けてください。いつ服用するのが一番よいか知りたい場合は、医師または薬剤師に尋ねてください。
- 医師に処方された通りの用量を守って服用してください。勝手に用量を変えないでください。医師の指示がないかぎり、服薬を中止してはいけません。
- 処方された用量よりも多く服用してしまったと思う場合には、最寄りの中毒事故管理センターまた

は救急施設に直ちに連絡してください。

- 新しい薬を使い始める場合や、これまで使っていた薬の投与のしかたが変わる場合には、医師に報告してください。用量を調節しなければならないことがあります。
- 処方されたストックリンが残り少なくなってきたら、医師または薬局から再び処方をしてもらってください。これは非常に大切なことです。ほんのわずかな間でも服薬を中断すると、血液中のウイルス量が増える可能性があるからです。また、ウイルスにストックリンに対する耐性が生じ、治療が難しくなることがあります。
- 服用中は、副作用をチェックするために、医師の指示で血液検査を受けなければならないことがあります。

カプセル

- 成人の場合は、1日1回ストックリン 600 mg (1回に 200 mg のカプセル 3錠) を経口服用します。小児の場合は、これより少ない用量になるでしょう（「子供でもストックリンを服用することができるのですか？」の項をお読みください）。

錠剤（600mg 錠は国内未発売）

- 成人の場合は、1日1回ストックリン錠 600 mg（1錠）を経口服用します。

子供でもストックリンを服用することができるのですか？

できます。カプセルを飲み込むことができる小児であれば、服用は可能です。小児によっては、強い発疹があらわれることがあります。ストックリン を服用中のお子さんに発疹やその他の副作用が現れた場合は、お子さんの担当医師に直ちに相談してください。小児に対する用量は、成人よりも少なくなると考えられます。低用量のストックリンカプセル錠も出ており（注：50mg、100mg カプセルは国内未発売）、小児の体重に合わせて、医師が適切な用量を判断してくれます。

ストックリンを服用してはならない場合とは？

ストックリンの有効成分であるエファビレンツや不活性成分のいずれかに対してアレルギーがある場合には服用しないでください。不活性成分については、医師および薬剤師のところに一覧表があります。

ストックリンを服用中、避けなければならないことは？

- スtockリン服用中の女性は妊娠しないようにしてください。ストックリンを投与した動物では、重大な先天性の異常が認められています。ヒトでも同じようなことが起こるかどうかは不明です。妊娠した場合には、直ちに医師に報告してください。また、妊娠を希望している場合にも、医師に相談してください。
- ピルや注射、埋め込み法などのホルモン剤を用いた避妊法は避けてください。ストックリンを服用すると、こうした避妊法の効果がなくなることがあります。他の避妊方法を用いていたとしても、コンドームやペッサリーなどによる確実な避妊を行う必要があります。
- スtockリン服用中の授乳は避けてください。米疾病管理センター(CDC)では、母親が HIV に感染

している場合、母乳による育児は避けるようにと勧告しています。これは、母乳を通して赤ちゃんに HIV が感染する可能性があるためです。また、ストックリンも母乳中に分泌され、赤ちゃんに重大な危害を及ぼす可能性があります。授乳を行っている場合には、医師に相談してください。授乳を中止するか、別の薬剤を使う必要があります。

- 眠気など、ストックリンと同じような副作用を生じる他の薬剤とストックリンを併用したり、ストックリン服用中にアルコールを摂取すると、副作用が強く出ることがあります。
- 医師に相談することなく、他の薬剤を使用しないでください [処方箋薬、大衆薬（一般用医薬品）、薬草製品、特にセイヨウオトギリソウ（セント・ジョーンズ・ワート）を含む]。

次のような場合には、ストックリンを使用する前に医師に報告してください。

- 肝臓に問題がある場合、または肝炎にかかっている場合。ストックリン服用中の肝機能検査が必要なことがあります。
- 精神疾患の既往がある場合、または現在ドラッグを使用していたり飲酒をしている場合。
- 発作を起こしたことがある場合、または発作の治療薬 [Dilantin®（フェニトイン）、Tegretol®（カルバマゼピン）、フェノバルビタールなど] を服用している場合。折りにふれ、血液中の薬物の量をチェックしなければならない場合があります。

ストックリンと他の薬剤を併用する場合に知っておかなければならない重要なこととは？

ストックリンによって他の薬剤（HIV 治療薬を含む）の効果に変化が生じ、重大な副作用が現れることがあります。その場合は、他の薬剤を変更したり、用量を調整することがあります。

薬草製品も含め、他の薬剤によってストックリンの効果に影響が生じることもあります。そのため、以下の点が非常に重要になってきます。

- ストックリンを服用していることを、すべての医師、薬剤師に知っておいてもらうこと。
- 使用している薬剤は、大衆薬、薬草、生薬も含め、すべて医師、薬剤師に報告すること。

受診の際、使用している処方箋薬、大衆薬（一般用医薬品）、さらに薬草、生薬があればすべて持参してください。もしくは、薬の名前、服用量、服用の頻度をリストにして提出してください。そうすれば、使用している薬剤を医師が完全に把握することができますし、それに基づいて、あなたの状況に最も合ったアプローチを考えてくれます。

ストックリンとセイヨウオトギリソウ [セント・ジョーンズ・ワート]、セイヨウオトギリソウを成分として含む製品の併用は勧められません。セイヨウオトギリソウには、食物性サプリメントの形で売られている薬草製品があります。この薬草を使っている場合、あるいはこれから使いたいという場合は、医師に相談してください。セイヨウオトギリソウは、ストックリンの吸収量を抑え、ウイルス負荷を増大させて、ストックリンに対するウイルスの耐性や他の HIV 治療薬に対する交差耐性を生じさせる可能性があります。

ストックリンと併用してはならない薬剤

以下の薬剤をストックリンと一緒に用いると、生命を脅かす重大な副作用が生じることがあります。ストックリンを服用中はこれらの薬剤を使用しないでください。

- Hismanal®（アステミゾール）

- Propulsid® (シサプリド)
- Versed® (ミダゾラム)
- Halcion® (トリアゾラム)
- 麦角製剤 (Wigraine® (国内未発売)、Cafergot®など)

ストックリンを服用するにあたって、以下の薬剤を使用している場合は、他の薬剤に変更しなければならないことがあります。

- Fortovase®, Invirase® (サキナビル)
- Biaxin® (クラリスロイシン)

以下の薬剤をストックリンとともに用いる場合は、用量を変更しなければならないことがあります。

- Crixivan® (インジナビル)
- Kaletra® (ロピナビル/リトナビル)
- メサドン (国内未発売)
- Mycobutin® (リファブチン)
- Zolof® (セルトラリン)

他にも、ストックリンとの併用によって問題が生じる可能性のある薬剤があります。使用している薬剤はすべて医師に報告してください。

ストックリンに関する一般的な注意：

薬は、患者さん向け情報に記載されていない病状に対しても処方されることがあります。処方された以外の病状に対してストックリンを使用しないでください。あなたと同じ症状があるからといって、ストックリンを他の人にあげたりしないでください。有害なことがあります。

ストックリンは、薬剤師から渡されたビンに入れて室温 (77°F [25°C]) で保管してください。59～86°F [15～30°C] 以外の温度では保管しないでください。

ストックリンは子供の手の届かない場所に保管してください。

このパンフレットは、ストックリンについて最も重要な事柄をまとめたものです。もっと詳しくお知りになりたい場合には医師にご相談ください。ストックリンの処方に関する詳しい情報については、薬剤師もしくは医師にお尋ねになるか、ストックリンのホームページ (<http://www.sustiva.com>) または電話 (1-800-426-7644) により入手できます。

Dilantin®は Warner-Lambert Co.の一部門である Parke-Davis の登録商標です。

Tegretol®は Novartis Pharmaceuticals Corporation の登録商標です。

Hismanal®および Propulsid®は Janssen Pharmaceutica Products, LP の登録商標です。

Versed®, Fortovase®, および Invirase®は Roche Pharmaceuticals の登録商標です。

Halcion®および Mycobutin®は Pharmacia & Upjohn の登録商標です。

Wigraine®は Organon の登録商標です。

Cafergot®は Novartis Pharmaceuticals Corporation の登録商標です。

Biaxin®および Kaletra®は Abbott Laboratories の登録商標です。

Crixivan®は Merck & Co, Inc.の登録商標です。

Zolof®は Pfizer, Inc.の登録商標です。

*SUSTIVA®は Bristol-Myers Squibb Pharma Company の登録商標です。

販売元：

Bristol-Myers Squibb Company

Princeton, NJ 08543 USA

51-022486-02

1178226

2003 年 6 月改訂

2004 年 3 月付の添付文書に基づき作成。

カレトラ・ソフトカプセル / カレトラ・リキッド

警告：カレトラと一緒に服用してはいけないお薬について確認するため、『カレトラと一緒に服用してはいけないお薬』の項目もお読みください。

患者様用インフォメーション (米国における患者向け情報)



カレトラ (ソフトカプセル / リキッド)

一般名：ロピナビル・リトナビル配合剤



カレトラを初めて服用される前に、この文面をよく読んでください。また、内容が変更されることがありますので、カレトラを継続して処方される度に改めて読んでご確認ください。この文面の内容は、カレトラを含む治療を開始した後の担当医師や薬剤師との相談に変わるものではありませんので、治療やカレトラについて質問等がある場合には必ず医師、薬剤師にご相談ください。

カレトラとはどのようなお薬で、どのように働くのですか？

カレトラは、ロピナビルとリトナビルという 2 種類の薬剤の配合剤 (合剤) です。カレトラは、HIV (ヒト免疫不全ウイルス) プロテアーゼ阻害剤という種類のお薬のひとつです。カレトラは必ず他の抗 HIV 薬と併用して、成人および 6 ヶ月以上の小児の HIV 感染症治療に使われます。

HIV による感染は人間の免疫に重要な CD4 (T) 細胞を破壊します。数多くの T 細胞が破壊されてしまった場合にヒト免疫不全症候群 (エイズ) が発症します。

カレトラは、HIV が増殖するのに必要な HIV プロテアーゼという酵素の働きを阻害します。カレトラは血液中の HIV の量を減らし、T 細胞の数を増やします。血液中の HIV 量を減らすことによ

って、死亡や免疫が弱っている場合にかかる感染症（日和見感染症）の危険性を低くすることができます。

カレトラを服用して HIV やエイズを治すことができますか？

カレトラを服用することによって HIV やエイズを治すことはできません。現時点では、カレトラの長期間におよぶ効果はわかっていません。カレトラを服用していても日和見感染症や HIV 感染に関連する症状（肺炎、ヘルペス感染症、非定型抗酸菌症など）が現れる可能性があります。

カレトラを服用することによって他人に HIV を移すことを防げますか？

カレトラを服用することで、無防備な性行為や血液汚染によって HIV を他人に移す危険性を低くすることはできません。

カレトラはどのように服用すれば良いのですか？

- 必ず医師の診断を受けながら、カレトラを服用してください。医師との相談なしに自分で治療を変更したり、中止したりしないでください。
- 毎日、必ず医師の指示どおりにカレトラを服用してください。人によってお薬の処方内容が違う場合もあります。
- 成人および 12 歳以上の小児患者さんの用法用量：
通常、成人には 1 回 3 カプセル（カレトラ・リキッドの場合には 1 回 5ml）を 1 日 2 回（朝と晩）に、他の抗 HIV 薬と併用して服用してください。
- 6 ヶ月から 12 歳以下の小児患者さんの用法用量：
6 ヶ月から 12 歳以下の小児患者さんにもカレトラ（カレトラ・リキッド）は処方できます。医師により患者さんの体重に従って用量が決められます。
- お薬の効果を高めるために、カレトラは食後に服用してください。
- 医師との相談なしに自分でカレトラの用法用量を変更したり、服用を中止したりしないでください。
- お手元のカレトラの残量が少なくなったら、担当医師より新たに処方していただいでください。短期間でもお薬の服用を中断した場合には、血液中のウイルス量が増える可能性があります。また、ウイルスがカレトラに対して耐性を獲得して治療が難しくなる可能性も有り得ます。
- スケジュールを立てて、それに従って服用するようにしてください。
- 自分自身のために処方されたお薬のみを服用してください。カレトラを他人に提供することや他人に処方されたお薬を服用するようなことはしないでください。

カレトラを飲み忘れた場合にはどうすれば良いのですか？

お薬を飲み忘れないようにしてください。カレトラを飲み忘れたことに気が付いた時に 1 回分をすぐ服用して、次の 1 回分は通常どおりの時間に服用してください。もし 1 回分の飲み忘れに気付いた時間が次の服用の予定時間に近い場合には、飲み忘れた 1 回分は服用しないで、次の 1 回分のみを通常どおりの時間に服用してください。飲み忘れた分を次の服用分に上乗せして 2 回分を一度に服用するようなことはしないでください。

カレトラを指示された用量より多く服用した場合にはどうなりますか？

万一、カレトラを指示された用量より多く服用した場合には、すぐに担当医師に連絡してください。医師より処方していただいているお薬と同様に、カレトラを小さなお子さんの手が届かないところに保管してください。カレトラ・リキッドはアルコールが加えてあります。小さなお子さんが誤ってカレトラ・リキッドを推奨された用量より多く服用した場合には、アルコールによって気分が悪くなる可能性がありますので、このような場合にはすぐに担当医師に連絡してください。

カレトラを服用してはいけない人はいますか？

自分の治療にカレトラを加えるか、担当医師とよく相談してください。

- ある種類の『お薬』を服用している場合にはカレトラを使わないでください。これらの『お薬』とカレトラと一緒に服用すると思わぬ重大な副作用が現れる可能性があります。カレトラを服用する前に必ず担当医師に他に服用している『お薬』やこれから服用する予定の『お薬』をすべてお知らせください。これらの『お薬』には他の処方薬、薬局から直接買った一般の市販薬の他に健康食品やサプリメントなども含まれます。

カレトラと一緒に服用してはいけないお薬について、詳しくは『カレトラと一緒に服用してはいけないお薬』の項目をお読みください。

- ロピナビルとリトナビルを含むカレトラの成分に対して過敏症の既往歴がある患者さんはカレトラを服用しないでください。

カレトラを他のお薬と一緒に服用して良いですか？

カレトラは、薬局から直接買った一般の市販薬も含め、他のお薬と相互作用を示す可能性があります。カレトラを服用する前に必ず担当医師に他に服用しているお薬やこれから服用する予定のお薬をすべてお知らせください。

カレトラと一緒に服用してはいけないお薬：

- 以下のお薬とカレトラと一緒に服用すると思わぬ重大な副作用が現れる可能性がありますので、一緒に服用しないでください。
 - ジヒドロエルゴタミン、エルゴノビン、エルゴタミン、メチルエルゴノビン
(ジヒデルゴット、カフェルゴットなど)
 - トリアゾラム (ハルシオン)
 - アステミゾール (ヒスマナール)
 - ピモジド (オーラップ)
 - シサプリド (アセナリン等)
 - プロパフェノン (プロノン)
 - テルフェナジン (トリルダン)
 - フレカイニド (タンボコール)
 - ミダゾラム (ドルミカム)
- リファンピシンとは一緒に服用しないでください。リファンピシンによりカレトラの血中濃度が減少して効果が弱くなる可能性があります。
- カレトラとセント・ジョーンズ・ワート (セイヨウオトギリソウ) を含むサプリメントなどを一緒に服用しないでください。セント・ジョーンズ・ワートを服用中の場合、またはこれから服用する予定である場合には担当医師にご相談ください。セント・ジョーンズ・ワートによりカレトラの血中濃度が減少してウイルス量が上昇する可能性やカレトラに対して耐性が生じる可能性、または他の抗 HIV 薬と交叉耐性が現れる可能性があります。
- 重大な副作用が発現する可能性がありますので、カレトラとロバスタチンやシンバスタチンなどの高脂血症治療用剤と一緒に服用しないでください。カレトラとアトルバスタチンやセリバスタチンの間にも相互作用が強化される可能性がありますので、これらの高脂血症治療用剤を服用する場合にはカレトラと併用する前に担当医師にご相談ください。

用法用量の調整が必要となる可能性があるお薬：

カレトラを処方する際に、担当医師が併用するお薬の用量を調整しないといけない場合があります。現在服用しているお薬や今後服用する予定のお薬がありましたら、担当医師に必ずお知らせください。

バイアグラ (シルденаフィル) をカレトラと一緒に服用する前に、担当医師よりこの 2 剤を併用した場合の問題点についてご相談ください。低血圧、視覚異常や 4 時間以上の勃起など、バイアグラ

の副作用が強く発現する可能性があります。万一、勃起が4時間以上継続する場合には、性器に永久的な障害が生じることを防ぐために、すぐに病院に行ってください。担当医師より詳しい症状についてお聞きください。

- 経口避妊薬（“ピル”）を使用している場合、カレトラとの服用により経口避妊薬の効果が低下する可能性がありますので、避妊薬の追加あるいは変更が必要となることがあります。
- エファビレンツ（ストックリン）やネビラピン（ビラミューン）とカレトラを併用した場合、カレトラの血中濃度が低下する可能性があります。エファビレンツやネビラピンをカレトラと一緒に併用する場合には、担当医師によりカレトラの用量を増やす可能性があります。
- リファブチン（国内未発売—Mycobutin 等の抗結核剤）を服用する場合には、担当医師によりリファブチンの用量を減らすことがあります。
- カレトラを服用する場合に治療の変更を検討する場合があるお薬：
 フェノバルビタール
 フェニトイン（アレピアチンなど）
 カルバマゼピン（テグレトールなど）
 これらのお薬は、カレトラの血中濃度を低下させ、カレトラの効果を弱らせる可能性があります。
- カレトラ・リキッドにはアルコールが入っています。メトロニダゾールやジスルフィラムを服用中である場合、または服用する予定でいる場合には、担当医師とご相談ください。重篤な吐き気や嘔吐が発現する可能性があります。
- カレトラとジダノシン（ヴァイデックス錠）を併用する場合：
 ジダノシン（ヴァイデックス錠）は、カレトラを服用する1時間前あるいは2時間後に服用してください。

カレトラの副作用にはどのようなものがありますか？

- カレトラを服用することによる副作用に関しては完全には把握されていません。
 副作用に関して質問がありましたら担当医師、看護師あるいは薬剤師にお問い合わせください。新たな副作用が発現する場合、または継続する症状がある場合には担当医師までお知らせください。
- カレトラを服用することによる主な副作用には次のものが考えられます：異常便（腸運動）、

下痢、疲労感、頭痛、吐き気。カレトラを服用した際に、小児患者で場合により皮疹がみられることがあります。

- カレトラを服用している患者さんで、血液検査より肝機能に異常がみられる場合があります。B型肝炎やC型肝炎を合併している患者さんでは、カレトラを服用した際に肝炎が悪化する場合があります。カレトラの臨床試験において重大な肝障害が発現した場合がありますが、これらの患者さんは他にも様々な症状があり、色々なお薬を一緒に服用しているので、カレトラの服用により肝障害が起きたのか、はっきりと分かっていません。
- カレトラを服用する際に、場合により、重篤な膵炎が起こる可能性があります。膵炎の既往歴がある場合には、カレトラを服用する際に膵炎が発現する可能性が強くなります。膵炎の症状である可能性がありますので、吐き気、嘔吐または腹痛などが発現した場合には、必ず担当医師にお知らせください。
- カレトラを服用した場合に、中性脂肪やコレステロールが大幅に上昇することがあります。これら中性脂肪およびコレステロールの上昇に伴って心疾患などの長期的な副作用が増加するか、現在判明していません。
- カレトラを含むプロテアーゼ阻害剤を服用中の患者さんにおいて、糖尿病や高血糖が発現することがあります。このような患者さんの中には、プロテアーゼ阻害剤を服用する前から既に糖尿病であった人、ならびに糖尿病でなかった人が含まれます。場合により糖尿病治療用剤の変更が必要となった患者さん、または新たに服用する必要となった患者さんがいます。
- 抗 HIV 薬を服用している患者さんで、体脂肪の変化がみられる場合があります。これらの変化には、背中の上部や首、胸部、腹部に脂肪が蓄積する場合、または顔や手足から脂肪が消失する場合があります。これらの変化の原因、および長期的な影響は現在判明していません。
- 血友病の患者さんにおいては、プロテアーゼ阻害剤を服用する際に、場合により、出血傾向がみられることがあります。
- カレトラを服用中の患者さんにおいて、以上の副作用の他にも症状はみられていますが、他にも多くのお薬が服用されており、病気自体の症状も重なっていて、はっきりとカレトラの服用から由来するかははっきりとしていません。これらの症状の中には重篤なものもあります。

カレトラを服用する前に担当医師には何を話せば良いのですか？

- 妊娠中あるいは妊娠する予定である場合：カレトラの妊婦ならびに胎児への影響は現在分かっていません。
- 授乳中の場合：HIV 陽性の場合には授乳は中止する必要があります。出産後に赤ちゃんが HIV 陽性でない場合には、授乳により HIV を移すことになります。赤ちゃんがいる場合、または出産する場合には、担当医師と赤ちゃんの育て方について最適な方法をご相談ください。
- 肝(機能)障害がある場合：肝(機能)障害がある場合、または B 型肝炎や C 型肝炎を合併している場合には、カレトラを服用する前に担当医師にお話ください。
- 糖尿病がある場合：プロテアーゼ阻害剤を服用する患者さんにおいて、場合により、糖尿病や高血糖が悪化すること、または新たに発現する可能性があります。糖尿病がある場合、または喉が渇いたりすること、排尿することが頻繁にありましたら、担当医師にお話ください。
- 血友病患者さんの場合：カレトラを服用することにより出血傾向がみられることがあります。

カレトラはどのように保管すれば良いのでしょうか？

- カレトラ、および全てのお薬を小さなお子さんの手の届かない場所に保管してください。
- カレトラ・ソフトカプセルならびにカレトラ・リキッドは、冷蔵庫に保管した場合にはラベルに記載されている有効期限まで使用できます。25℃までの室温保存では、2 ヶ月以内にお薬を全て服用してください。

有効期限の過ぎたお薬や不要となったお薬は廃棄してください。お薬を廃棄する際には、小さなお子さんが手に取れないようにしてください。

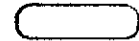
処方薬に関する一般情報：

このお薬や病気について質問がある場合には、担当医師や他の医療従事者にご相談ください。患者様用インフォメーションに記載されている方法の他に、お薬が処方される場合も有り得ます。このお薬について気になる点がありましたら、担当医師にご相談ください。担当医師、または薬剤師により医療従事者用に提供された情報を説明していただいでください。このお薬を処方された目的以外の状態に服用しないでください。このお薬を他人と共用しないでください。

ビラセプトを服用する方へ

商品名：ビラセプト錠

一般名：メシル酸ネルフィナビル



<警告>

ビラセプトと一緒に飲んではいけない薬について注意してください。『一緒に服用してはいけない薬』の項をご参照ください。

ビラセプトを服用し始める前にこの説明書をしっかりとお読みください。

説明書の内容が変更される場合もありますので、ビラセプトが処方されるたびに読み直してください。

この説明書の内容は要約であり、担当医師や看護師、薬剤師など（以下、担当医師等）から来院ごとに受ける指示等の代用にはなりません。服用をはじめるとき、ならびに定期受診の際には担当医師等と十分に話し合ってください。

ビラセプトを服用している間は、常に担当医師等の診察を受けてください。

担当医師等に相談せずに勝手に薬の服用を止めたり、薬を変更したりしないでください。

<ビラセプトはどんな薬か？ どのような作用があるのか？>

ビラセプトはHIV（ヒト免疫不全ウイルス）プロテアーゼ（たん白分解酵素）阻害剤というタイプの薬です。

HIV感染症の治療では、必ず他の抗HIV薬と一緒にビラセプトを服用します。

ビラセプトは成人向けの薬です。

HIVというウイルスに感染すると、CD4（T）細胞が破壊されます。CD4（T）細胞はヒトの免疫を担う重要な役割があります。

たくさんのCD4（T）細胞が破壊された結果、エイズを発症します。

ビラセプトはHIV（ヒト免疫不全ウイルス）が増殖するのに必要なHIVプロテアーゼ（たん白分解酵素）を阻害する働きのある薬です。

ビラセプトは血液中のHIVの量（ウイルス量といいます）を低下させます。

ビラセプトはHIV感染症やAIDSの根治薬ではありませんが、ビラセプトはHIVが原因の死亡や病気を発症する危険性を低くすることができます。

また、ビラセプトを服用するとT細胞（CD4陽性リンパ球といいます）の数が増える効果が認められています。

<ビラセプトはHIV-1感染症やエイズを治すことができるのか？>

ビラセプトはHIV感染症やエイズの根治薬ではありません。